

2026 年第 28 週(7 月 6 日～7 月 12 日)

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

感染症発生動向調査

名古屋市感染症発生動向調査情報

名古屋市感染症情報センター(名古屋市衛生研究所疫学情報部)

2026 年(令和 8 年) 7 月 15 日作成

<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/eisei/1015269/1015388/index.html>

◆本市の状況

〔定点把握感染症の発生動向〕

- ・愛知県では第 27 週に定点当たり報告数が国立感染症研究所が定める警報の基準である「5」を上回ったことから、7 月 9 日に手足口病警報が発令されました。
- ・手足口病の定点当たり患者報告数は 5.65 で、前週比 1.2 倍でした。
- ・ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は 4.23 で、前週比 1.8 倍でした。

〔1 類～5 類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症 の分類	疾病名	発生数	発生の概要
2026 年 第 28 週	2 類	結核	11	男性、89 歳、結核性胸膜炎 男性、86 歳、肺結核 女性、69 歳、肺結核 男性、95 歳、肺結核 女性、20 歳、肺結核 男性、22 歳、肺結核 女性、24 歳、無症状病原体保有者 男性、25 歳、無症状病原体保有者 女性、23 歳、無症状病原体保有者 男性、69 歳、無症状病原体保有者 女性、38 歳、無症状病原体保有者
2026 年 第 28 週	4 類	レジオネラ症	3	男性、57 歳、肺炎型、感染地域：愛知県 男性、60 歳、肺炎型、感染地域：名古屋市 男性、70 歳、肺炎型、感染地域：不明
2026 年 第 28 週	5 類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	女性、93 歳

2026 年 第 28 週	5 類	梅毒	9	男性、39 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、24 歳、早期顕症梅毒 1 期 女性、18 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、30 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、23 歳、早期顕症梅毒 2 期 女性、19 歳、早期顕症梅毒 2 期 女性、24 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、31 歳、無症状病原体保有者 女性、37 歳、無症状病原体保有者
2026 年 第 28 週	5 類	百日咳	2	女性、25 歳、検査方法：抗体の検出、 感染地域：不明 女性、1 歳、検査方法：核酸増幅法に よる病原体遺伝子の検出、感染地域： 名古屋市

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった 1 類から 5 類全数報告感染症。

診断週	感染症 の分類	疾病名	発生数	発生の概要
2026 年 第 27 週	3 類	細菌性赤痢	1	男性、22 歳、菌種： <i>flexneri</i> (B 群)、 感染地域：不明
2026 年 第 27 週	3 類	腸管出血性大腸菌感染 症	2	女性、25 歳、感染地域：愛知県、血清 群・毒素型：O157・ベロ毒素 VT2 女性、17 歳、感染地域：愛知県、血清 群・毒素型：O157・ベロ毒素 VT2
2026 年 第 27 週	5 類	劇症型溶血性レンサ球 菌感染症	1	男性、55 歳
2026 年 第 27 週	5 類	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	1	男性、21 歳、無症状病原体保有者、感 染経路：同性間性的接触、感染地域： 国内
2026 年 第 27 週	5 類	梅毒	2	女性、30 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、29 歳、早期顕症梅毒 2 期

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔2026 年 1 類～5 類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

感染症の分類	疾病名	累計
1 類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2 類感染症	急性灰白髄炎	0
2 類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	274(90)
2 類感染症	ジフテリア	0
2 類感染症	重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2 類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
3 類感染症	コレラ	0
3 類感染症	細菌性赤痢	1(1)
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	31(6)
3 類感染症	腸チフス	1
3 類感染症	パラチフス	0
4 類感染症	E 型肝炎	2
4 類感染症	A 型肝炎	2
4 類感染症	デング熱	4
4 類感染症	マラリア	1
4 類感染症	レジオネラ症	22
5 類感染症	アメーバ赤痢	10
5 類感染症	ウイルス性肝炎	1
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	13
5 類感染症	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	3
5 類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	18
5 類感染症	後天性免疫不全症候群（H I V感染症を含む）	22(18)
5 類感染症	ジアルジア症	1
5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5
5 類感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	1
5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	41
5 類感染症	水痘（入院例に限る）	8

NIDWR

Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

5 類感染症	多剤耐性緑膿菌感染症	2
5 類感染症	梅毒	284 (65)
5 類感染症	播種性クリプトコックス症	1
5 類感染症	百日咳	60
5 類感染症	麻疹	5

累計は 2026 年第 1 週からの診断週による累計、() 内は無症状病原体保有者累計患者数を再掲。対象疾病が多いため、4 類及び 5 類感染症は報告のあった疾病のみを掲載。 (報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔愛知県麻しん・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻しん・風しんは全数把握対象となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻しん・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。

調査結果については下記のリンク先(愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ)
<https://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html> をご覧ください。

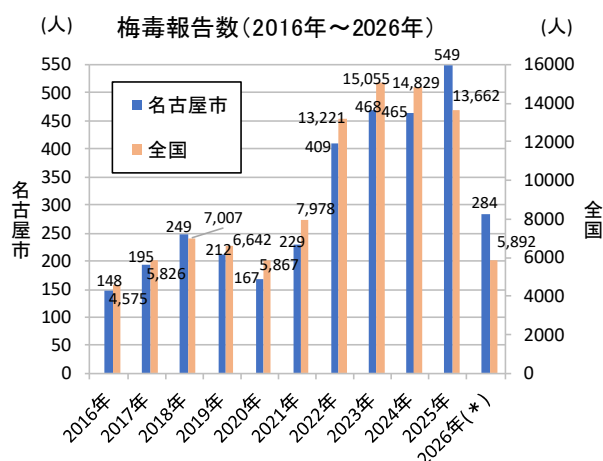
〔定点医療機関からの情報〕

定点医療機関からは検査結果や患者発生状況等がコメント情報として報告されています。定点医療機関から報告されたコメント情報は下記のとおりです。なお、コメント情報のなかった定点医療機関については掲載しておりません。

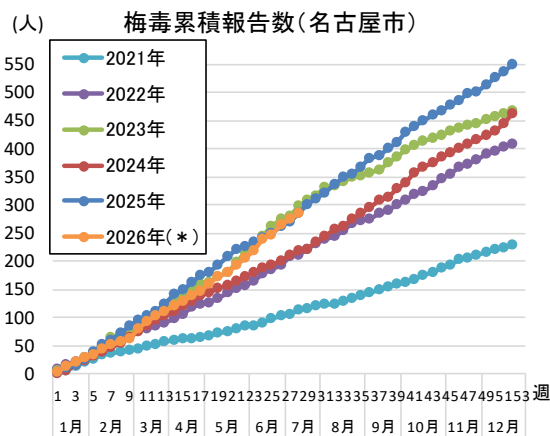
マイコプラズマ肺炎：3 名 (10 歳男性、44 歳男性、37 歳女性)	定点医療機関 (千種区)
インフルエンザ A 型：1 名 インフルエンザ B 型：0 名	定点医療機関 (中村区)
インフルエンザ A 型：0 名 インフルエンザ B 型：0 名	定点医療機関 (昭和区)
小中学生でマイコプラズマ肺炎がわりと出てます	定点医療機関 (南区)
急性呼吸器感染症 (男性：99 名、女性：86 名) 計 185 名	定点医療機関 (南区)
インフルエンザ、COVID-19 は 0 名	定点医療機関 (名東区)
マイコプラズマ肺炎：3 名	定点医療機関 (名東区)

〔名古屋市の梅毒報告数〕

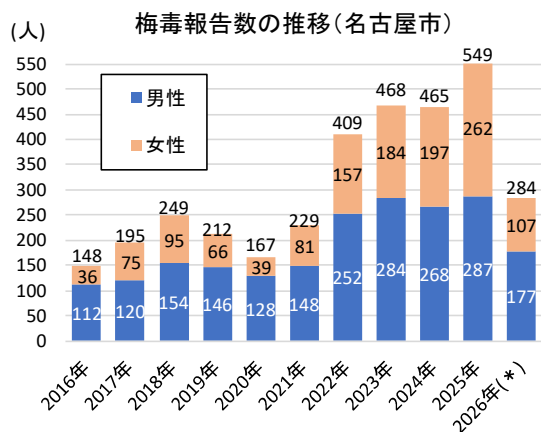
- 本市における梅毒の2026年第1週から第28週までの累積報告数は284人です。近年、梅毒の報告数が全国的に増加しており、本市における2025年の報告数は過去最多の549人でした。（「梅毒累積報告数（名古屋市）」を参照）
- 梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体による感染症で、感染経路は感染部位と粘膜や皮膚との直接接触（性的接触）です。
- 梅毒の症状は、時間の経過とともに局所から全身に広がっていきます。症状が一時的に消失しても治療を行わないと病気は進行します。また、感染しても症状が現れない場合や治っても再度感染することがあります。
- 妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児も感染し、死産や早産、先天梅毒を起こす可能性があります。
- 梅毒の治療には抗生物質が用いられます。



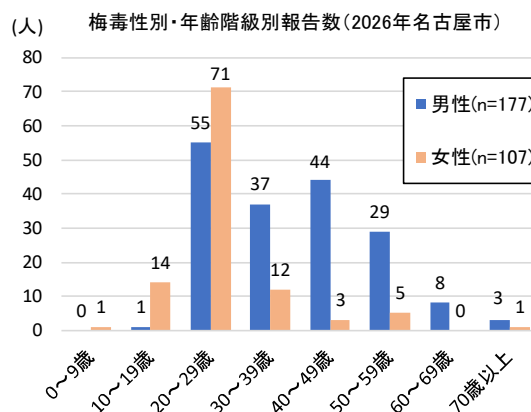
* 2026年は名古屋市は第28週、全国は第27週まで



* 2026年は第28週まで



* 2026年は第28週まで

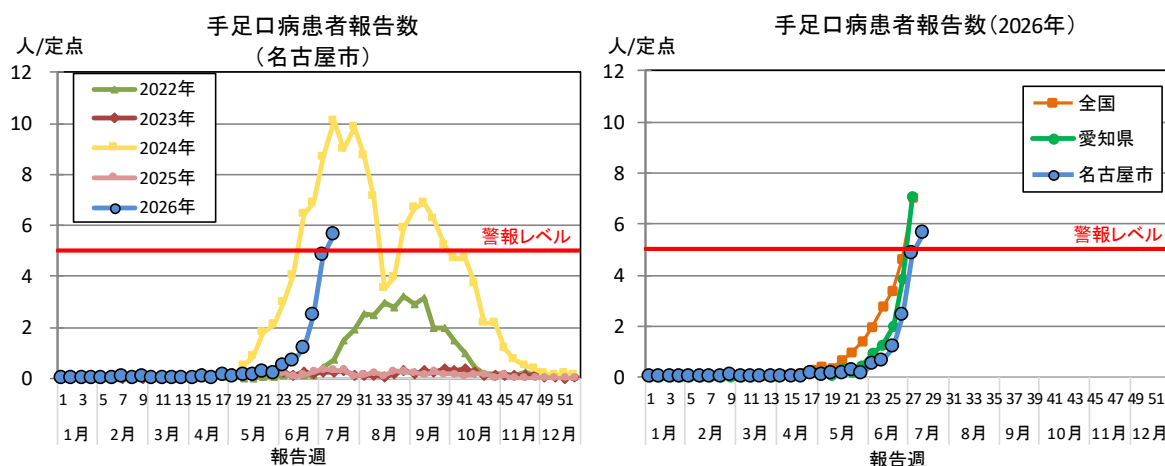


注) 第28週まで

〔トピックス：手足口病〕

- 愛知県では第27週に定点当たり報告数が国立感染症研究所が定める警報の基準である「5」を上回ったことから、7月9日に手足口病警報が発令されました。
- 本市における2026年第28週（7月6日～7月12日）の市内31定点からの手足口病患者報告数は175人、定点当たり患者報告数は5.65人で、前週比1.2倍に増加しました。
- 手足口病はウイルスの感染により起こる感染症で、乳幼児を中心に主に夏季に流行します。
- 症状は、手のひらや足の裏、口の中などに水疱性の発疹が現れ、発熱を伴う場合もあります。発疹は、時に肘、膝、臀部などにも出現することもあります。
- ごく稀に髄膜炎や脳炎などを生じることがあるので、高熱や嘔吐、頭痛などがみられた場合は注意が必要です。
- 感染経路は、飛沫感染、接触感染、経口感染で、乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは、手洗い、排泄物の適切な処理、タオルの共用を避けることが感染予防の上で大切です。

〔名古屋市の手足口病患者報告数：2026年7月15日作成〕



定点当たり患者報告数の推移

	第21週 (5/18～ 5/24)	第22週 (5/25～ 5/31)	第23週 (6/1～ 6/7)	第24週 (6/8～ 6/14)	第25週 (6/15～ 6/21)	第26週 (6/22～ 6/28)	第27週 (6/29～ 7/5)	第28週 (7/6～ 7/12)
名古屋市 (2026年)	0.23 [7]	0.16 [5]	0.52 [16]	0.65 [20]	1.19 [37]	2.45 [76]	4.81 [149]	5.65 [175]
愛知県	0.22	0.47	0.95	1.26	1.96	3.83	7.05	-
全国	0.98	1.41	1.98	2.75	3.40	4.61	7.03	-
名古屋市 (昨年)	0.32	0.23	0.23	0.06	0.13	0.26	0.35	0.32

※定点当たりの患者報告数が、「5」を超えると流行発生警報の基準（都道府県単位）

※患者報告数は各週公表時における速報値

※[]内は名古屋市内31定点からの患者報告数

※2025年4月7日（第15週）から定点医療機関数に変更されました。

第15週以降は変更後の定点医療機関数を使用して図表を作成しています。

◆2026 年第 28 週 患者報告数（疾病区別）、定点当たり患者報告数（疾病区別）、 年齢階級別患者報告数（疾病別）、患者報告数および定点当たり患者報告数の推移（疾病別）

患者報告数（名古屋市）

2026年第28週（2026年7月6日～7月12日）

疾病名/区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	太白	計	前週比	過去比※
★インフルエンザ					1				1								2	0.5	0.1
★新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	9	3	2	8	5		4	1		16	3	3	3	5	35		97	1.6	0.2
○RSウイルス感染症								1		3							4	0.6	0.1
○咽頭結膜熱										2						2	4	0.4	0.3
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	1		1	2					4	3	1	1	6	11	1	34	0.8	0.9
○感染性胃腸炎	8		4	4	11	5	2			8	2	6	17	28	10	4	109	0.9	1.4
○水痘	1			3						1							5	0.7	0.9
○手足口病	32	4	5	54		5	1			13	2	7	19	12	12	9	175	1.2	1.6
○伝染性紅斑			1														1		0.0
○突発性発しん				1	1					2	1		2	3	1		11	1.6	2.4
○ヘルパンギーナ	13	3	1	45	2		1			35	3	3	4	10	9	2	131	1.8	1.5
○流行性耳下腺炎	1			2													3		2.2
△急性出血性結膜炎																	0		
△流行性角結膜炎												1					1		0.0
◇細菌性髄膜炎			1														1		0.1
◇無菌性髄膜炎							1										1		
◇マイコプラズマ肺炎							2			2							4	0.8	0.0
◇クラミジア肺炎																	0		
◇感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）																	0		
★急性呼吸器感染症（ARI）	170	234	233	658	81	59	34	8	23	296	40	217	238	217	287	71	2866	1.0	
計	237	245	247	776	103	69	45	10	24	382	54	238	284	281	365	89	3449		
★急性呼吸器感染症定点数	4	2	4	4	3	2	2	2	2	4	3	3	4	4	3	4	50		
○小児科定点数	3	1	2	2	2	1	1	1	1	3	2	2	2	4	2	2	31		
△眼科定点数	1		1	1	1		1	1	1			1		1	1	1	11		
◇基幹定点数			1				1			1							3		

★○△◇は定点種別を示す。

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

※2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数に変更されました。

※過去3年の同週の
定点当たり患者報
告数平均値との比
※新型コロナウイルス
感染症（COVID-
19）は過去2年の同
週との比

定点当たり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況（名古屋市）

2026年第28週（2026年7月6日～7月12日）

疾病名/区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	太白	平均
インフルエンザ					0.33				0.50								0.04
★新型コロナウイルス感染症（COVID-19）																	1.94
RSウイルス感染症								1.00		1.00							0.13
咽頭結膜熱										0.67							0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	1.00		0.50	1.00					1.33	1.50	0.50	0.50	1.50	5.50	0.50	1.10
感染性胃腸炎	2.67		2.00	2.00	5.50	5.00	2.00			2.67	1.00	3.00	8.50	7.00	5.00	2.00	3.52
水痘	0.33			1.50						0.33							0.16
手足口病	10.67	4.00	2.50	27.00		5.00	1.00			4.33	1.00	3.50	9.50	3.00	6.00	4.50	5.65
伝染性紅斑			0.50														0.03
突発性発しん				0.50	0.50					0.67	0.50		1.00	0.75	0.50		0.35
ヘルパンギーナ	4.33	3.00	0.50	22.50	1.00		1.00			11.67	1.50	1.50	2.00	2.50	4.50	1.00	4.23
流行性耳下腺炎	0.33			1.00													0.10
急性出血性結膜炎																	
流行性角結膜炎												1.00					0.09
急性呼吸器感染症（ARI）	42.50	117.00	58.25	164.50	27.00	29.50	17.00	4.00	11.50	74.00	13.33	72.33	59.50	54.25	95.67	17.75	57.32

警報対象疾病	流行発生警報		流行発生注意報 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	—	—	—
RSウイルス感染症	—	—	—
咽頭結膜熱	3	1	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—
感染性胃腸炎	20	12	—
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	—
伝染性紅斑	2	1	—
突発性発しん	—	—	—
ヘルパンギーナ	6	2	—
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	—
流行性角結膜炎	8	4	—
急性呼吸器感染症（ARI）	—	—	—

流行警報・注意報について

■ **太字の数字** は流行発生警報

■ **斜体の数字** は流行発生注意報

■ 警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値（左表）に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■ この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対策立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。

* 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の区別定点当たり患者報告数は計上しておりません。

年齢階級別患者報告数(名古屋市)

2026年第28週(2026年7月6日～7月12日)

疾病名/年齢階級	0～5 ヵ月	6～11 ヵ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	計
インフルエンザ									1				1								2
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		2	5	4	5	4	7	12	3	7	3	13	6	6	7	5	2	1	1	4	97

疾病名/年齢階級	0～5 ヵ月	6～11 ヵ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20歳 以上	計
RSウイルス感染症	1	1	1	1											4
咽頭結膜熱				1	1			2							4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1		2	2	3	2	2	4	2	9	2	5	34
感染性胃腸炎	4	9	21	6	6	6	4	6	11	3	2	13	6	12	109
水痘											1	4			5
手足口病	4	17	95	38	11	2	3		2	1	1			1	175
伝染性紅斑								1							1
突発性発しん		1	8	2											11
ヘルパンギーナ		8	27	32	22	13	8	4	5	2	3	3	1	3	131
流行性耳下腺炎						2	1								3

疾病名/年齢階級	0～5 ヵ月	6～11 ヵ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70歳 以上	計
急性出血性結膜炎																				0
流行性角結膜炎															1					1

疾病名/年齢階級	0歳	1～4	5～9	10～ 14	15～ 19	20～ 24	25～ 29	30～ 34	35～ 39	40～ 44	45～ 49	50～ 54	55～ 59	60～ 64	65～ 69	70歳 以上	計
細菌性髄膜炎	1																1
無菌性髄膜炎							1										1
マイコプラズマ肺炎		1	1	1			1										4
クラミジア肺炎																	0
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)																	0

疾病名/年齢階級	0歳	1～4	5～9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	計
急性呼吸器感染症(ARI)	186	1158	452	215	102	128	137	115	126	95	81	71	2866

患者報告数および定点当たり患者報告数の推移(名古屋市)

疾病名/調査週		第19週 (5/4～ 5/10)	第20週 (5/11～ 5/17)	第21週 (5/18～ 5/24)	第22週 (5/25～ 5/31)	第23週 (6/1～ 6/7)	第24週 (6/8～ 6/14)	第25週 (6/15～ 6/21)	第26週 (6/22～ 6/28)	第27週 (6/29～ 7/5)	第28週 (7/6～ 7/12)
インフルエンザ	患者報告数	11	4	2	5	3	2	5	0	4	2
	定点当たり患者報告数	0.22	0.08	0.04	0.10	0.06	0.04	0.10	0	0.08	0.04
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	患者報告数	9	8	8	10	10	4	21	38	62	97
	定点当たり患者報告数	0.18	0.16	0.16	0.20	0.20	0.08	0.42	0.76	1.24	1.94
RSウイルス感染症	患者報告数	5	3	4	2	6	3	5	12	7	4
	定点当たり患者報告数	0.16	0.10	0.13	0.06	0.19	0.10	0.16	0.39	0.23	0.13
咽頭結膜熱	患者報告数	7	8	13	10	10	9	7	3	9	4
	定点当たり患者報告数	0.23	0.26	0.42	0.32	0.32	0.29	0.23	0.10	0.29	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	患者報告数	16	39	46	49	35	31	35	28	42	34
	定点当たり患者報告数	0.52	1.26	1.48	1.58	1.13	1.00	1.13	0.90	1.35	1.10
感染性胃腸炎	患者報告数	73	123	155	148	101	121	125	115	117	109
	定点当たり患者報告数	2.35	3.97	5.00	4.77	3.26	3.90	4.03	3.71	3.77	3.52
水痘	患者報告数	15	7	16	12	7	18	7	10	7	5
	定点当たり患者報告数	0.48	0.23	0.52	0.39	0.23	0.58	0.23	0.32	0.23	0.16
手足口病	患者報告数	3	3	7	5	16	20	37	76	149	175
	定点当たり患者報告数	0.10	0.10	0.23	0.16	0.52	0.65	1.19	2.45	4.81	5.65
伝染性紅斑	患者報告数	0	1	0	1	0	1	0	2	0	1
	定点当たり患者報告数	0	0.03	0	0.03	0	0.03	0	0.06	0	0.03
突発性発しん	患者報告数	3	4	8	8	10	7	6	5	7	11
	定点当たり患者報告数	0.10	0.13	0.26	0.26	0.32	0.23	0.19	0.16	0.23	0.35
ヘルパンギーナ	患者報告数	3	3	5	6	14	12	17	34	73	131
	定点当たり患者報告数	0.10	0.10	0.16	0.19	0.45	0.39	0.55	1.10	2.35	4.23
流行性耳下腺炎	患者報告数	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3
	定点当たり患者報告数	0.03	0.03	0	0	0	0	0.03	0	0	0.10
急性出血性結膜炎	患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定点当たり患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	患者報告数	0	3	1	2	0	0	2	2	0	1
	定点当たり患者報告数	0	0.27	0.09	0.18	0	0	0.18	0.18	0	0.09
細菌性髄膜炎	患者報告数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	定点当たり患者報告数	0	0.33	0	0	0	0	0	0	0	0.33
無菌性髄膜炎	患者報告数	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	定点当たり患者報告数	0	0.33	0	0	0	0	0	0.33	0	0.33
マイコプラズマ肺炎	患者報告数	2	3	1	3	4	6	8	2	5	4
	定点当たり患者報告数	0.67	1.00	0.33	1.00	1.33	2.00	2.67	0.67	1.67	1.33
クラミジア肺炎	患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	定点当たり患者報告数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	患者報告数	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	定点当たり患者報告数	0.33	0	0	0.33	0	0	0	0	0	0
急性呼吸器感染症(ARI)	患者報告数	1873	2625	2430	2325	2229	2164	2382	2443	2788	2866
	定点当たり患者報告数	37.46	52.50	48.60	46.50	44.58	43.28	47.64	48.86	55.76	57.32

(患者報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

◆入院サーベイランス

基幹定点医療機関（市内 3 医療機関：北区、昭和区、中川区）より、インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による入院患者の発生状況が毎週報告されています。

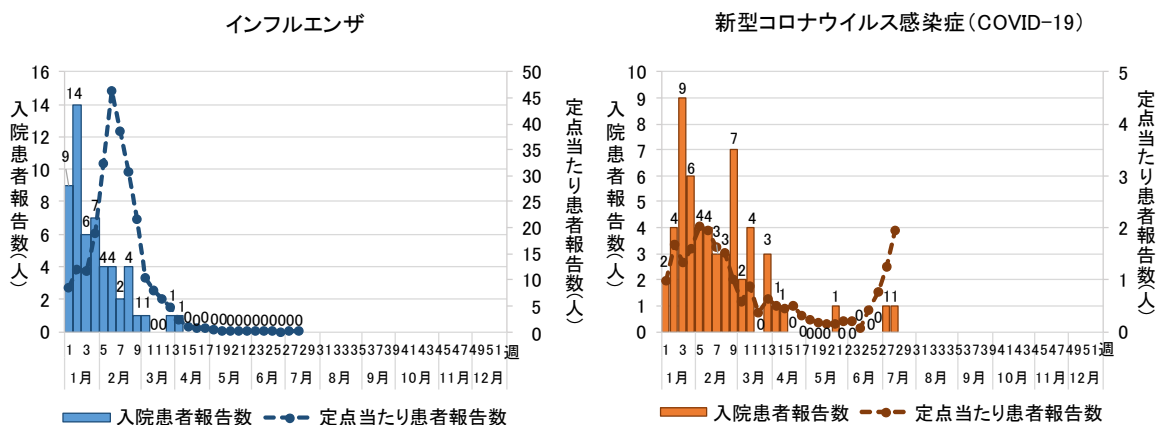
年齢階級別入院患者報告数(2026年第28週(2026年7月6日～7月12日))

疾病名/年齢階級	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上	計
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

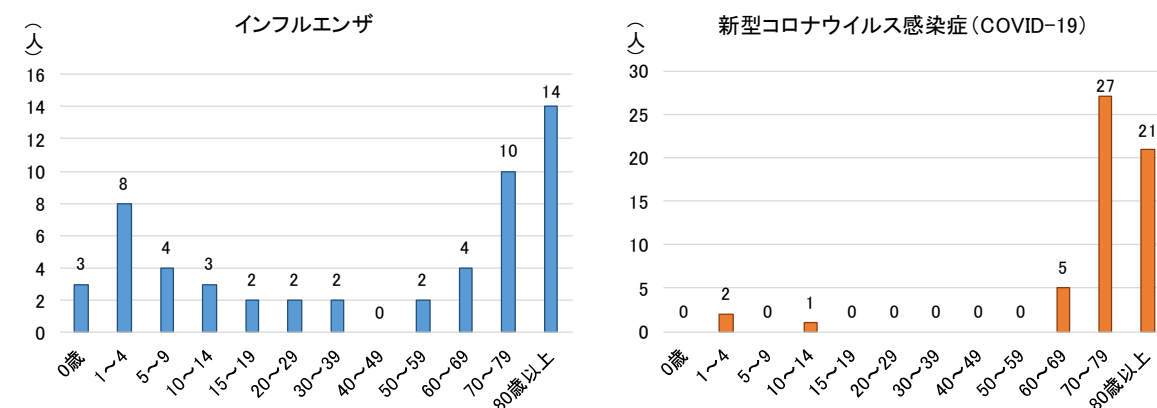
年齢階級別入院患者報告数(2026年累積)

疾病名/年齢階級	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上	計
インフルエンザ	3	8	4	3	2	2	2	0	2	4	10	14	54
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	0	2	0	1	0	0	0	0	0	5	27	21	56

入院患者報告数および定点当たり患者報告数の推移(2026年)

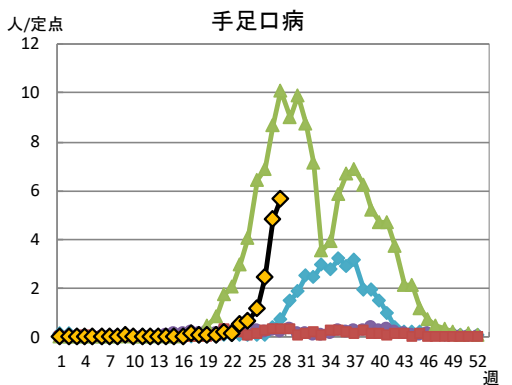
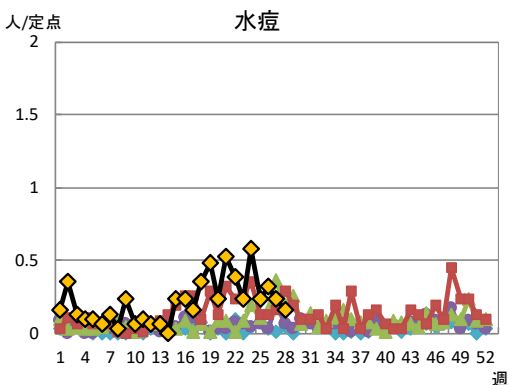
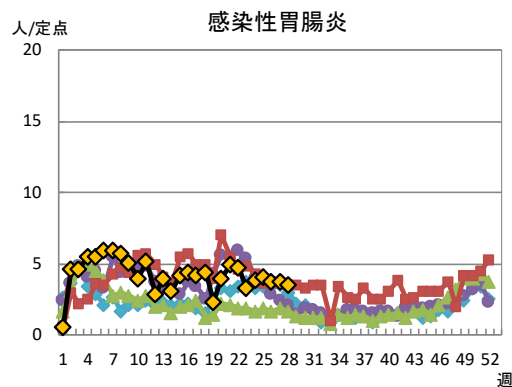
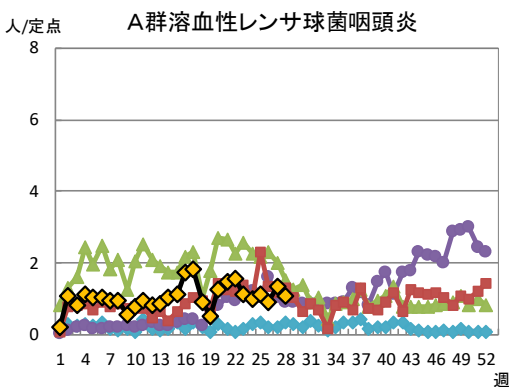
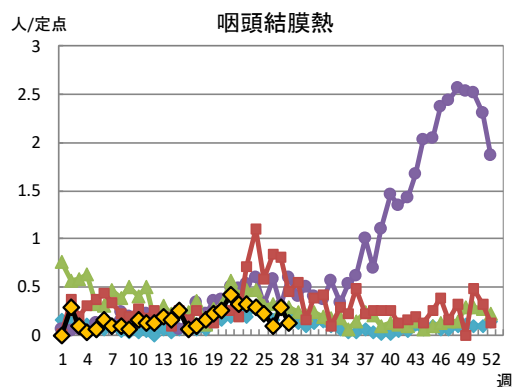
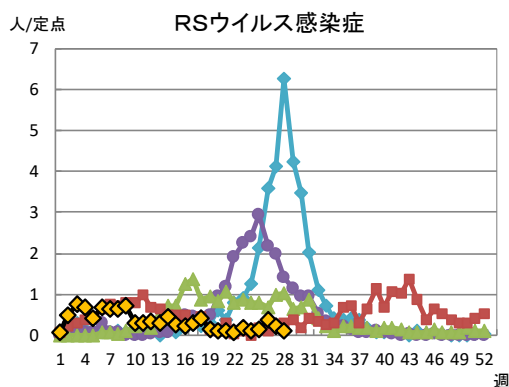
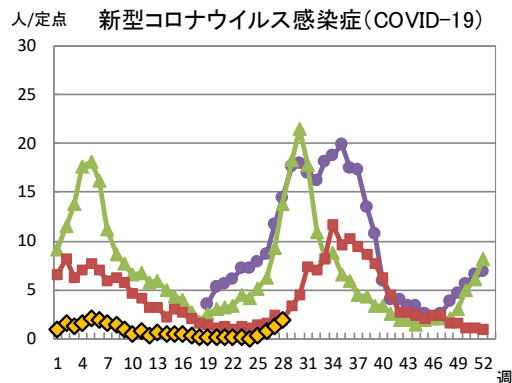
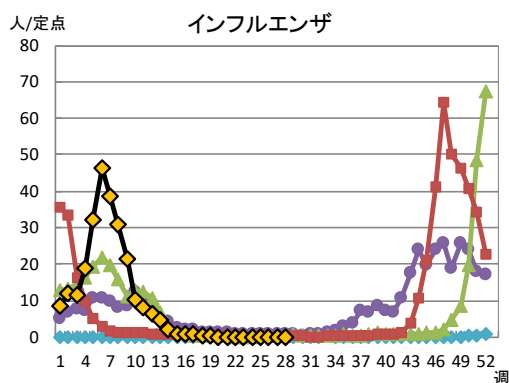


年齢階級別入院患者報告数(2026年累積)

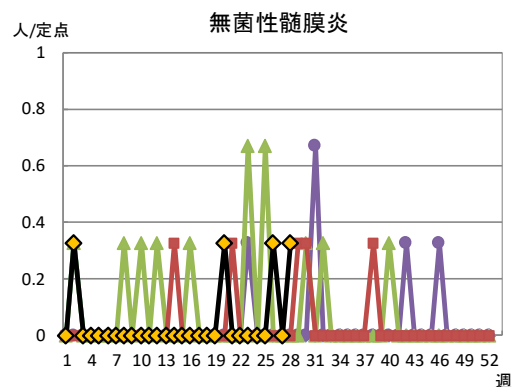
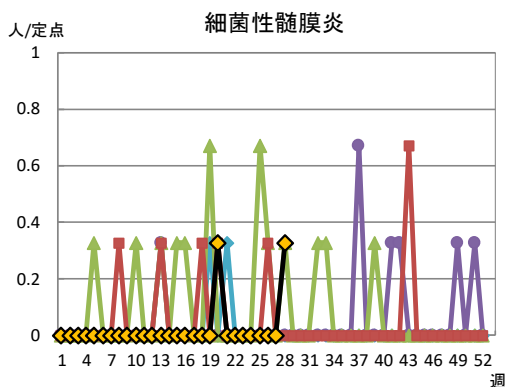
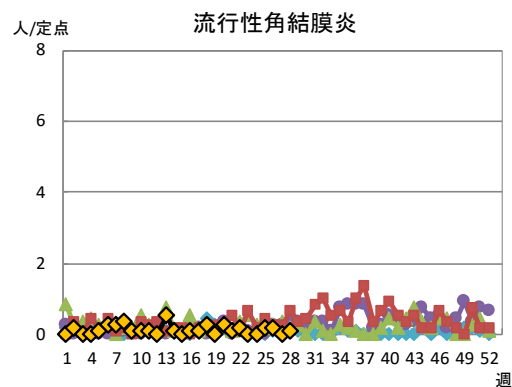
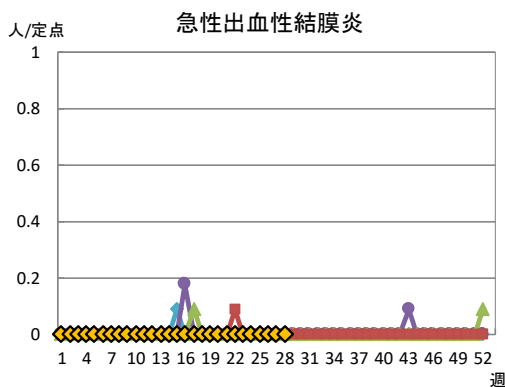
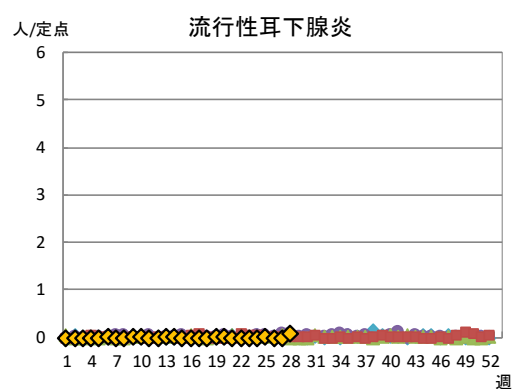
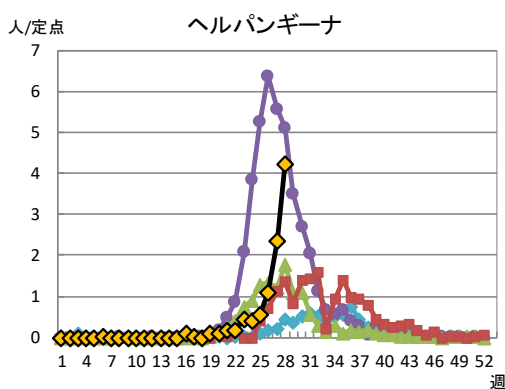
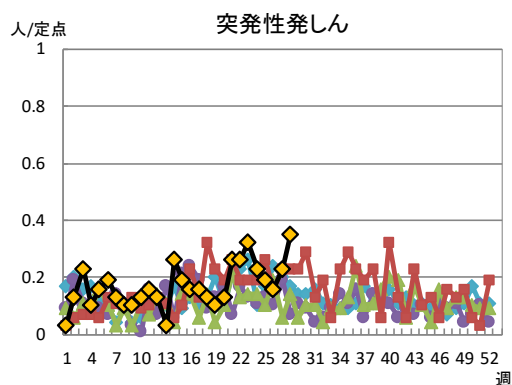
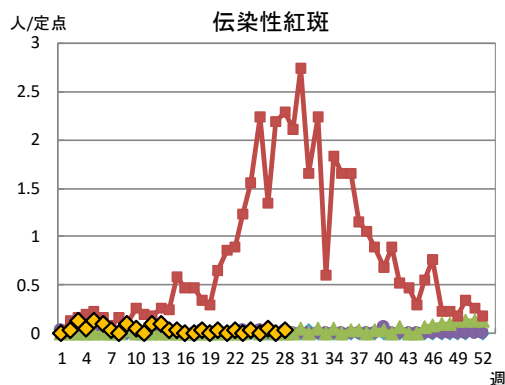
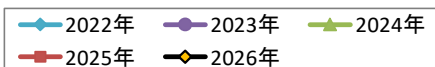


◆急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点医療機関からの
定点当たり患者報告数の推移グラフ(1) 2026年第28週まで

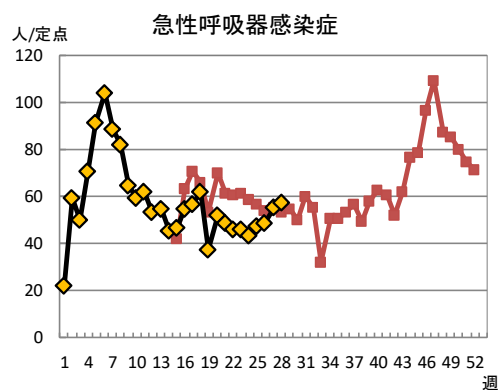
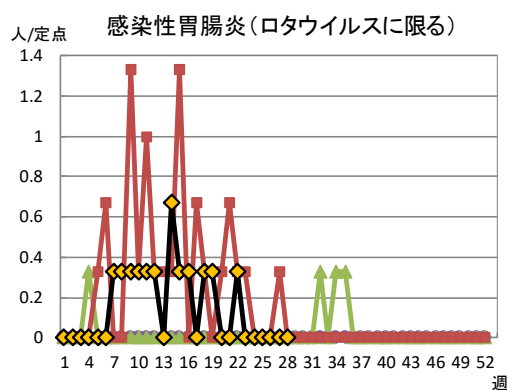
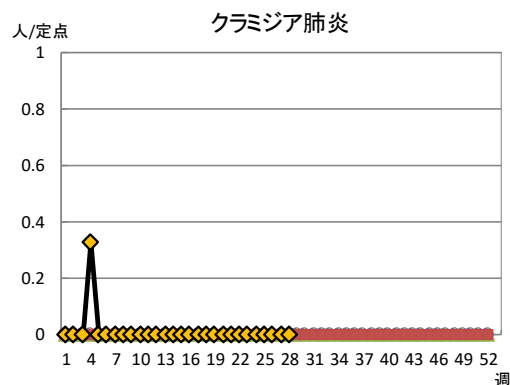
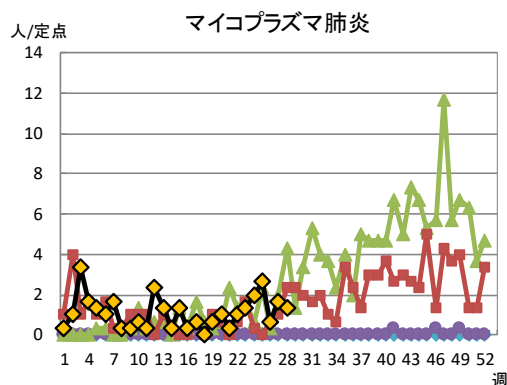
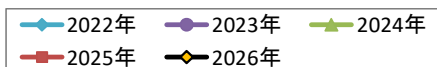
— 2022年 — 2023年 — 2024年
— 2025年 — 2026年



◆急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点医療機関からの
 定点当たり患者報告数の推移グラフ(2) 2026年第28週まで



◆急性呼吸器感染症定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点医療機関からの
 定点当たり患者報告数の推移グラフ(3) 2026年第28週まで



※2025年4月7日(第15週)から急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数が変更されました。第15週以降は変更後の定点医療機関数を使用して図表を作成しています。

◆ 基幹病院定点月報の集計結果〔2026 年 6 月分〕

基幹定点数：3（北区、昭和区、中川区）

基幹定点報告、区別患者報告数（名古屋市）

2026年6月

疾病名/区	北	昭和	中川	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	2	2	6
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				0
計	2	2	2	6

※「薬剤耐性緑膿菌感染症」は2026年4月6日より5類全数報告に移行し、疾病名は「多剤耐性緑膿菌感染症」へ変更となりました。

基幹定点報告、年齢階級別患者報告数（名古屋市）

2026年6月

疾病名/年齢階級	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90歳以上	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症							2	2	1	1	6
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症											0
計	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	6

※「薬剤耐性緑膿菌感染症」は2026年4月6日より5類全数報告に移行し、疾病名は「多剤耐性緑膿菌感染症」へ変更となりました。

◆ 性感染症（STD）について〔性感染症定点把握、2026 年 6 月分〕

性感染症定点数：15（泌尿器科系：8、産婦人科系：7）

患者報告数を性別でみると男性は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の順に多く、女性は性器ヘルペスウイルス感染症、性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の順に多く報告がありました。今月の性感染症の報告数は男性 182 人、女性は 57 人でした。（表 2、図 1 参照）

2026 年 6 月分を年齢階級別に見ると、男性では性器クラミジア感染症で 15 歳以上の全ての年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマでは 20 歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。また、淋菌感染症では 15 歳から 54 歳の年齢階級で報告がありました。

女性では性器クラミジア感染症で 15 歳から 39 歳および 45 歳から 49 歳の年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症では 20 歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。また、尖圭コンジローマでは 20 歳から 24 歳および 35 歳から 39 歳の年齢階級で報告があり、淋菌感染症では 20 歳から 24 歳の年齢階級で報告がありました。（表 2、図 2 参照）

表1. 性感染症区別患者報告数（名古屋市）

2026年6月

疾病名/区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
性器クラミジア感染症	5		21	1	4	39	9			6				7	2	4	98
性器ヘルペスウイルス感染症			9	4		40	7					5			3	2	70
尖圭コンジローマ			6			20	2			5				1		3	37
淋菌感染症			8		3	16	2			2						3	34
計	5		44	5	7	115	20			13			5	8	5	12	239

STD 定点数	1		2	1	1	2	1	1		1		1	1	1	1	1	15
---------	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---	--	---	---	---	---	---	----

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

表2. 性感染症年齢階級別患者報告数（名古屋市）

2026年6月

疾病名/年齢階級	性別	0～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55歳以上	計
性器クラミジア感染症	男性		4	14	16	10	9	8	6	4	3	74
	女性		1	11	8	2	1		1			24
性器ヘルペスウイルス感染症	男性			7	8	6	3	4	3	4	5	40
	女性			5	5	1	2	3	4	1	9	30
尖圭コンジローマ	男性			8	5	5	2	4	2	2	7	35
	女性			1			1					2
淋菌感染症	男性		1	13	6	4	3	4	1	1		33
	女性			1								1
計	男性		5	42	35	25	17	20	12	11	15	182
	女性		1	18	13	3	4	3	5	1	9	57

図1. STD各感染症が総患者報告数に占める割合(2026年6月)

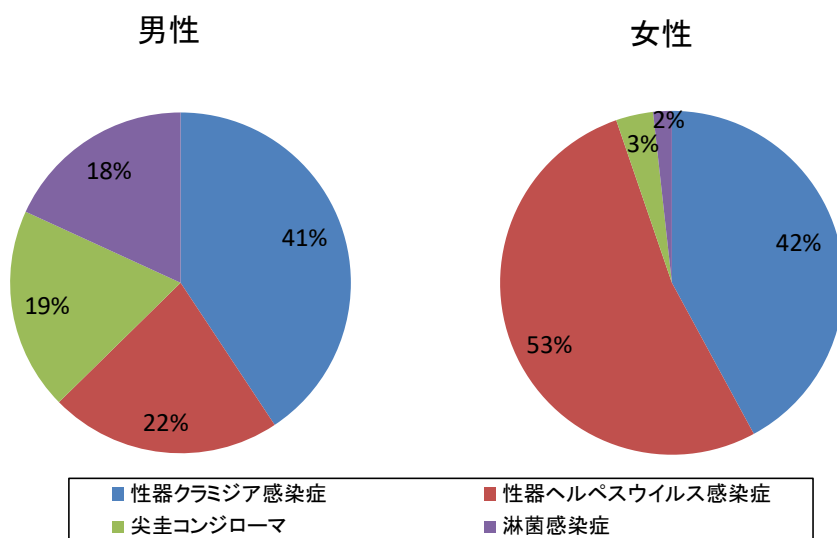


図2. 各STDの性別・年齢階級別の定点あたり患者報告数(2026年6月)

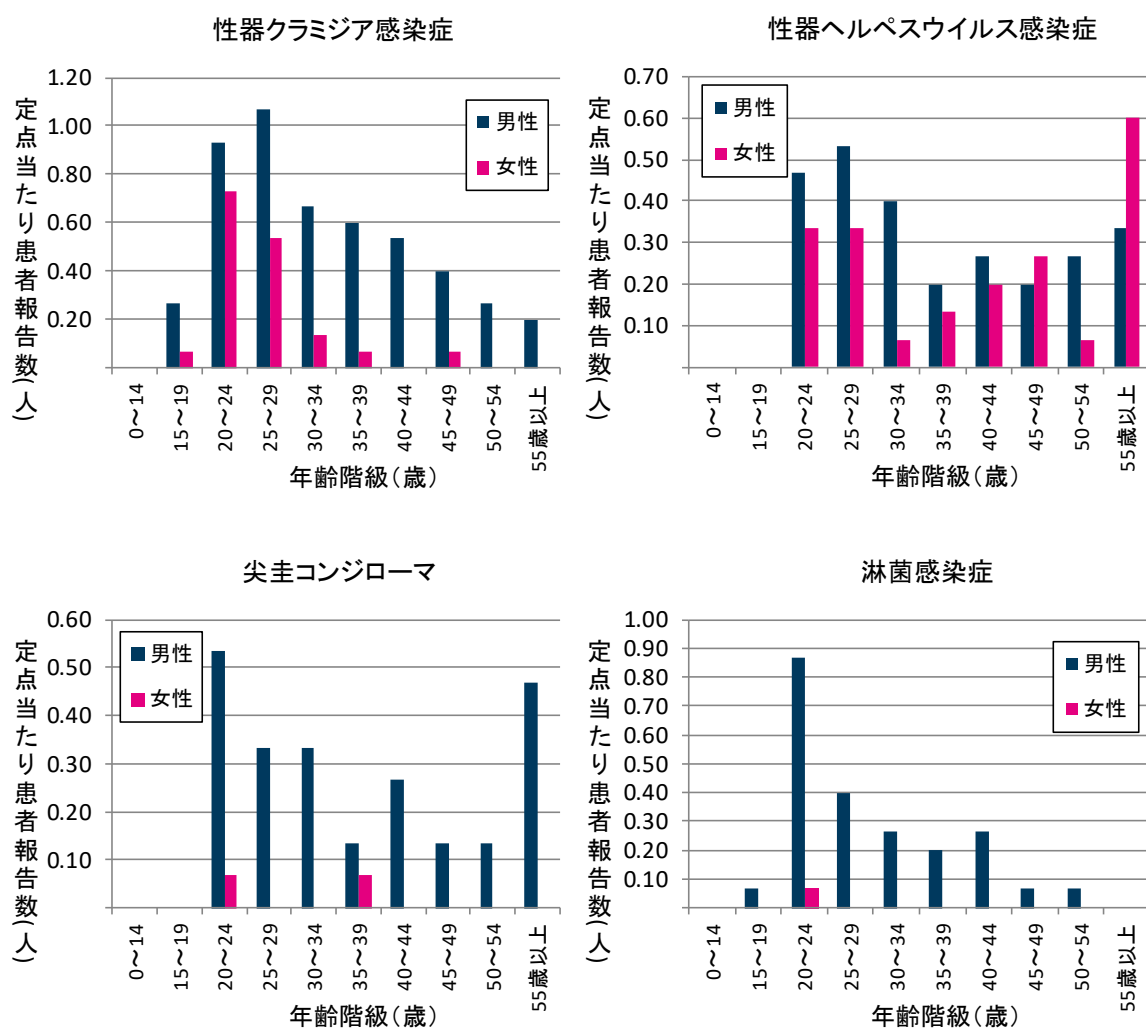


図3. 各STDの定点当たり患者報告数の推移

